

# ハンガリー人日本語学習者の言語学習観

カーロリ・ガーシュパール大学 人文学部 日本学科 若井誠二

## 0. はじめに

外国語学習の様々な側面で個人差が現れることはよく知られているが、この重要な要因の1つとして「言語学習観」をあげることができる。これは言語学習の方法・効果などについて言語学習者・教師が自覚的あるいは無自覚的にもっている信念・確信を意味する。

言語学習観の調査は、教師が担当するクラスや学習者に対して以下の点を期待して行うと考えられる。

- ①学習者が自身の言語学習観を客観的に把握すれば自らの学習行動を反省し改善することが可能
- ②教師がA) 個々の学習者の言語学習観、B) 教師と学習者の言語学習観のずれ、C) 学習者同士の言語学習観のずれを把握することにより、よりよいクラス運営の方策を探ることが可能

一方、山本(1995)、木谷(1998)、板井(1997)、藤井(2002)のように、「ある規則でくくられた集団(例えば機関別・機関レベル別・地域別・母語別など)の言語学習観には何らかの傾向が見られる」とする立場の先行研究も見られる。この種の研究の目的は、言語学習観の傾向を知ること、この集団と接する教師間の共通理解・課題を明らかにすることと考えられる。

若井・岩澤(2002)は、後者の立場からハンガリー人日本語学習者を対象にアンケート調査を実施した。本論ではこのデータをもとに、①ハンガリー人日本語学習者全体としての言語学習観の傾向、②大学生日本語学習者と高校生日本語学習者における言語学習観の相違について検討することを目的とする。

## 1. 調査について

日本語学習者を対象とする言語学習観に関する先行研究では、その調査項目に差はあれど基本的には Elaine K. Horwitz (1987) の BALLI (Beliefs About Language Learning Inventory) や、Cotterall (1994) の調査項目をベースとしたアンケート調査を行っている。また、これらの調査報告を読むと、特に教室活動に大きく影響を与える言語学習観のグループとして①教師の役割 ②学習者の自律性 ③言語学習の性質 ④コミュニケーション・ストラテジーが挙げられていることがわかる。そこで若井・岩澤ではこれら先行研究でのアンケート調査項目を参考に、上記4グループについて50の質問項目を作成し、できるだけ広い範囲で調査を行うことを目標に、ハンガリー日本語教師会、ハンガリー青年海外協力隊日本語教師会、そして地方の学習者・教師向けに月刊の日本語教育専門誌を発行している OCSIBA の協力を得て、2002年4月に、各機関に調査用紙を送付し調査実施をお願いした。調査用紙は6月22日までに、合計18機関(高等教育機関4、中等教育機関9、その他5)307名(高等教育機関89、中等教育機関161、その他28、不明7、教師22)から回収した。尚、本論ではこのうち、①学習者全体、および②大学生 ③高校生からの回収分を考察の対象とする。

## 2. 調査結果と考察

各質問項目の回答方法は「Strong Agree」「Agree」「Disagree」「Strong Disagree」の4選択肢からの選択回答方式であるが、本論では全体回答数のうち「Strong Agree」「Agree」の占める割合「賛成率」を基準としてデータを分析する。

2-1. 教師の役割について

表1《教師の役割》

	質問項目	全体	大学生	高校生
1	外国語学習に成功するにはいい教師が必要である	98.6	96.6	99.4
2	日本語の間違ひは、教師が直すべきだ	97.5	95.5	98.8
3	教師に自分がどのくらい外国語学習が進んだか教えてほしい	90.9	92.1	90.1
4	教師による定期的な試験は学習者にとって助けとなる	89.5	95.5	85.1
5	教師に自分の外国語学習上の問題点や困難な点を教えてほしい	89.5	88.8	90.1
6	教師が学習者を一所懸命学習させなければならない	84.2	87.6	83.9
7	宿題は教師が学習者に出すべきだ。	80.4	93.3	71.4
8	教師にどのように外国語学習を進めるべきか教えてほしい	77.5	83.1	75.2
9	教師は学習しなければならないことを、全て教えるべきだ	77.2	59.6	88.2
10	教師は常になぜ教室でこのような活動をするのか、その目的や理由を学習者に教えるべきだ	51.6	47.2	56.5
11	教師に個々の学習活動にどのくらい時間を使えばいいのか教えてほしい	40.7	44.9	37.9
12	教師に学習到達目標を設定してもらいたい	28.4	27	25.3
13	言語学習に進歩が見られなかったら、それは教師の責任だ	10.9	12.4	10.6

全体的な傾向を見ると、ハンガリー人日本語学習者は外国語学習の成功にはいい教師の存在が欠かせないと考え（項目1：賛成 98.6%）、間違ひの訂正（項目2：賛成 97.5%）、習得程度や習得状況の説明（項目3：賛成 90.9%）、学習上の問題点の指摘（項目5：賛成 89.5%）を教師の役割に求めている。また、教師は定期的な試験を行い（項目4：賛成 89.5%）宿題を出して（項目7：賛成 80.4%）学習者を一生懸命勉強させること（項目6：賛成 84.2%）も期待されている。一方、教室活動の目的やそれに費やす時間について教師に説明を求めべきだと考えている学習者が比較的少ないことや（項目10：賛成 51.6% 項目11：賛成 40.7%）例え言語学習に進歩が見られなかった場合もそれを教師の責任としない点（項目13：賛成 10.9%）から、学習者は教師の指示を信じ、それに従おうとしている姿勢が感じ取れる。

大学生と高校生の言語学習観の傾向も基本的には上記のそれと大きな違ひが見られない。ただ大学生は高校生に比べると、教師に対しすべてを教えることを要求はしていないが、（項目9：大学生 59.6%、高校生 88.2%）「宿題」や「試験」を課してほしい（項目7：大学生 93.3%、高校生 71.4%）（項目4：大学生 95.5%、高校生 85.1%）とより強く考えていることが読みとれる。

2-2. 学習者の自律性

表2《学習者の自律性》

	質問項目	全体	大学生	高校生
1	私は努力すれば外国語が上手になると信じている	97.5	95.5	98.1
2	はっきりとした目的があれば、外国語の上達が早くなると思う。	91.9	96.6	90.1
3	自分で新しいことに挑戦するのが好きだ	90.9	92.1	88.2
4	私は教師の言う通り勉強すれば上達が早くなると思っている。	90.2	86.5	91.9
5	外国語を学習するとき、教師に助言を求めるのが好きだ	80.7	82	78.9

6	学習意欲が強ければ学習環境が悪くても外国語が上手になると思う	76.8	82	73.3
7	計画を立てて勉強すれば外国語の上達が早くなる	76.5	84.3	71.4
8	自分の外国語学習のどの部分を改善すべきかわかっている	69.1	77.5	66.5
9	私は外国語をどう学習すればいいかよく知ってる	63.9	65.2	64
10	自分の間違いを自分でチェックするとき、一番学習できる	61.1	60.7	62.7
11	自分自身で問題の解決を見つけるのが好きだ	60.7	59.6	60.2
12	自分がどの程度学習できたかを自分でチェックする方法がある	41.1	41.6	40.4
13	自分の外国語習得を阻害するものについて教師と話す	38.2	39.3	39.8
14	細かい間違いを気にせず積極的に外国語を話せる	34.7	40.4	32.3

全体的な傾向として、ハンガリー人学習者は教師の言う通り勉強すれば上達が早くなると考え（項目 4：賛成 90.2%）学習上の問題が発生した時も、自分自身でその解決策を探そうと努力したり、或いは教師と共に解決しようとはせず（項目 11：賛成 60.7%、項目 13：38.2%）、あくまでも教師側の助言を求めようとする傾向にある。（項目 5：賛成 80.7%）。そして自分がどのぐらい学習できたかチェックする方法を知らず（項目 12：賛成 41.1%）そのため細かい間違いが気になって積極的に外国語を話すことができないと感じている（項目 14：賛成 34.7%）ことが読み取れる。

このグループに関しても、大学生と高校生の言語学習観の傾向は上記のそれと大きな違いは見られず、また大学・高校両者間のそれにも大きな差はない。ただ大学生は高校生よりは「自らの外国語学習の改善点」がわかっており（項目 8：大学生 77.5%、高校生 66.5%）「意欲・目的・計画」を重視するなど、（項目 6：大学生 82%、高校生 73.3%）（項目 2：大学生 96.6%、高校生 90.1%）（項目 7：大学生 84.3%、高校生 71.4%）一定項目で高い自律性を持っていることがわかる。

### 2-3. 言語学習の本質

表 3 《言語学習の本質》

	質問項目	全体	大学生	高校生
1	外国語学習はその外国語が話されている国で行うのが一番いい	91.9	92.1	92.5
2	外国語を学習し始めた初期の段階で誤りを正しく訂正しなければ、誤りが残ってしまい、後で訂正するのは難しくなる	87.4	86.5	89.4
3	外国語学習の方法は他の分野の学習とは異なる	86	89.9	83.9
4	外国語をうまく話すためには、その文化を知ることが必要だ	78.9	85.4	77
5	外国語学習の中で一番重要なのは、語彙の学習である	77.5	74.2	73.9
6	外国語学習の中で一番重要なのは母語からの翻訳の学習である	50.9	36	59.6
7	外国語学習の中で一番重要なのは、文法の学習である	48.4	52.8	46
8	日本語は聞いて理解するよりも話す方が易しい	43.2	49.4	39.1
9	日本語は読んだり書いたりより話す方が易しい	35.8	36	39.1
10	外国語学習の中で一番重要なのは、きれいな発音で話すことである	33.3	28.1	38.5
11	言葉と直接関係のない間違い（身振り手振り）は重要ではない	29.8	15.7	37.9

12	外国語を学習するとき、正しく話せるようになるまで外国語を話すべきではないと思う	13	10.1	16.8
----	---	----	------	------

木谷直之（1998）によると極東ロシアの大学生の日本語学習者は文法重視の傾向があるようだが、ハンガリー人日本語学習者は全体的に文法よりも語彙学習を重要視していることがわかる。

（項目 5：賛成 77.5%）。この背景にはオノマトペや助数詞などの語彙の多さ、あるいは語彙としての漢字の習得困難が考えられる。これとは別に「初期の段階で訂正しなければ誤りが残ってしまう」と考える学習者の多さも目立つ。（項目 2：賛成 87.4%）

このグループに関しても、基本的には全体・大学生・高校の間に言語学習観の大きな差は見られない。しかし高校生は大学生より「きれいな発音」や「翻訳」を重視し（項目 10：大学生 28.1%、高校生 38.5%）（項目 6：大学生 36%、高校生 59.6%）、大学生は高校生より「文化」「言葉以外のコミュニケーション」を重要視している点から（項目 4：大学生 85.4%、高校生 77%）（項目 11：大学生 15.7%、高校生 37.9%）、大学生の方が高校生より「形より（コミュニケーションの）中身」を重要視していることがわかる。

#### 2-4. コミュニケーション・ストラテジー

表 4《コミュニケーション・ストラテジー》

	質問項目	全体	大学生	高校生
1	日本語を使うなら、どんな活動でも日本語の学習の役に立つ	91.2	94.4	89.4
2	時間がかかってもやさしい文型から難しい文型へと徐々に積み上げて学習していく方が、最終的には実力がつくと思う。	87.7	84.3	88.8
3	大量の反復練習（繰り返し練習）は重要だ。	86.7	85.4	87.6
4	文法上の疑問点をはっきりさせないと落ち着かない	84.2	87.6	84.5
5	カセットテープなどによる練習は重要だ。	81.4	91	77
6	言語学習には教科書が必要だ	76.8	84.3	73.3
7	日本人と日本語を話すのは楽しい。	72.3	70.8	69.6
8	日本語で言いたいことが言えない時クラスで母語を使用しても構わない。	63.2	53.9	70.2
9	分からない語彙の意味を推測しても構わない。	48.4	46.1	48.4
10	クラスメート同士で日本語を話しても役に立たない	20	14.6	23
11	教科書以外のものは、言語学習に役立たない	8.8	5.6	11.2

クラスメート同士で日本語を話しても役に立たない、教科書以外のものは言語学習に役立たないと考えている学習者は少ないが（項目 10：賛成 20%、項目 11：賛成 8.8%）一方で文型積み上げ型、反復練習型の教室活動を重要視していたり（項目 2：賛成 87.7%、項目 3：賛成 86.7%）、文法上の疑問点をはっきりさせないと落ち着かないなど（項目 4：賛成 84.2%）、オーディオ・リンガル法に代表される「正しさ」を目指す教室活動が求められていることがうかがえる。これらの背景には、中等教育機関卒業試験、大学日本学科入学試験、或いはその他の公的試験が、いずれも「なめらかさ」よりも「正確さ」を重要視している点があげられる。

このグループでも大学生と高校生の言語学習観の差はそれほど見られないが、大学生の方が高校生より「カセットテープでの練習」を重要視し（項目 5：大学生 91%、高校生 77%）、教科書の必要性を感じていることや（項目 6：大学生 84.3%、高校生 73.3%）高校生の方が大学生より母語に頼っていることがわかる。（項目 2：大学生 53.9%、高校生 70.2%）

### 3. まとめ・今後の課題

今回の調査結果をまとめると以下のようになる。

- ① ハンガリー人日本語学習者全体としての傾向
- ・自律性が低く、高い教師依存の傾向を示す。
  - ・語彙学習を重視している。
  - ・「滑らかさ」より「正しさ」を重視する傾向にある。  
(この背景にはハンガリーで実施される各種日本語試験の存在があると考えられる)
- ②大学生と高校生の比較
- ・モチベーションに関するもの他、大学生の方が高校生より一定の項目でより強い自律性を示している。
  - ・大学生の方が「形」より「中身」を重視する傾向にある。

今回の調査では、先行研究で取り扱われたアンケート項目を参考に調査用紙を作成したが、必ずしも回答者にとって親切な項目設定ではなかったようだ。また4つの選択肢を使用しておきながら、実際の考察ではT分析や分散分析などの統計処理を行わず「賛成率」のみを判断材料としてしまった点も反省材料である。また出てきた数値の解釈にも迷うところがあった。<sup>1</sup>

また、言語学習観調査の目的は言語学習観を知ることだけではなく、それを利用して日本語教育を改善していくことにある。このためには本論では取り上げなかった「学習者」と「教師」の言語学習観比較が不可欠となるし、今回の調査結果を基に、より具体的な視点からより適当な言語学習観調査を行い、そして調査結果の有効利用についても考えていく必要があると思う。今後の課題としたい。

最後に、今回の調査に快く協力して下さった日本語学習者・日本語教師の皆様にご心からの謝意を表わしたい。

#### 参考文献：

- 板井美佐 (1997) 「言語学習についての中国人学習者の BELIEFS—上海復旦大学のアンケート調査より—」『筑波大学留学生センター 日本語教育論集 12』63-87
- 木谷直之 (1998) 「極東ロシアの大学生の言語学習観について—海外日本語教師会研修のための基礎データ作成を考える—」『日本語国際センター』第8号 JF 日本語国際センター 95-109
- 藤井昌子 (2002) 「ブルガリア人大学生の言語学習観」『日本語教育方法研究会誌』Vol.9 No.1 日本語教育方法研究会 16-17.
- 山本その子 (1995) 「中・独日本語学習者のピリーフ比較 BALII 調査をもとに」『拓殖大学日本語紀要』第9号 拓殖大学留学生別科
- 若井誠二・岩澤 和宏(2002) 「ハンガリーにおける日本語学習者と日本語教師のピリーフス」ハンガリー日本語教師会セミナー資料
- Elaine K. Horwitz 1987. Surveying Students Beliefs About Language Learning. *Learner Strategies in Language Learning* ed. by Anita Wenden & Joan Rubin. 119-132
- Sara Cotterall. 1994. Readiness for Autonomy: Investigating Learner Beliefs. *System*, 1995 Vol.23, No.2 195-205

<sup>1</sup> 例えば「教師の役割」において、大学生は高校生に比べると教師による試験や宿題を強く望んでいるが、これが「重要と思われる点さえ提示してもらえば、あとは自分で勉強する」という考えを反映したものであれば、高校生に比べて教師依存度が高いとは言えない。